

2 児童生徒用メールアカウント活用の実践

京都みらいネットでは、インターネットの教育利用の支援の一つとして児童生徒用メールアカウント（以下「メールアカウント」という。）も発行しています。これは、インターネットで利用できるメールアカウントを発行できない学校（メールサーバを設置していない）において、児童生徒にメールを利用した教育活動を実施したいとの依頼により発行しています。希望する学校が具体的な教育計画を添えて申請し、期間を定めて発行しています。

平成11年度のメールアカウント利用校は、小学校13校、中学校2校、府立学校6校の計21校です。なお、すべての府立高等学校は、京都みらいネットと専用線で接続されており、その中でメールアカウントを発行できるメールサーバを設置している学校は対象外です。

ここでは、当総合教育センターの京都みらいネット拠点で実施したメールアカウントの活用の状況や活用計画等についての調査から活用例をいくつか考察します。

(1) 校種別活用例

ア 小学校における活用例

利用方法に関しては、ソフトウェアを利用して、一つのメールアカウントを複数の児童に振り分け、それぞれの児童が個別のメールアカウントをもっているのと同様に利用している例があります。

利用目的としては、「自己表現力」や「他者を思いやる心」などの育成を目指し、他の地域の学校との交流学习として電子メールの交換を行っています。更に、ネットワーク利用時のマナーを身に付けさせたいという目的も見られました。

具体的には、調べ学習で児童自身が探し出したホームページを見て、疑問に思ったことや分からなかったことについて電子メールで質問したり、あるいは子どもたちの質問に対し専門的な回答をしていただける方への依頼に活用しているという報告がありました。

また、ホームページから得た情報に対する感想や感謝の気持ちをホームページ管理者に伝えることなどにも使っている学校があります。

いずれの学校でも児童は、意欲的に取り組み電子メールの返事を心待ちにしているようです。

イ 中学校における活用例

中学校における活用例として、次のようなものがあります。

一つめは、二つの学校の特定のクラス間で行う生徒同士による電子メールの交換です。そこではお互いの自己紹介から、更に自分の校区の紹介をするなど、自分や自分たちを取り巻く地域に関する情報の発信などを通して自己表現力の育成や地域理解、他者理解などを図ることを目的としています。

二つめは、調べ学習の一環としてTV会議システムを用いて共同学習に取り組む学校間で、事前学習に電子メールを利用しているものです。あらかじめテーマを決める段階から電子メー

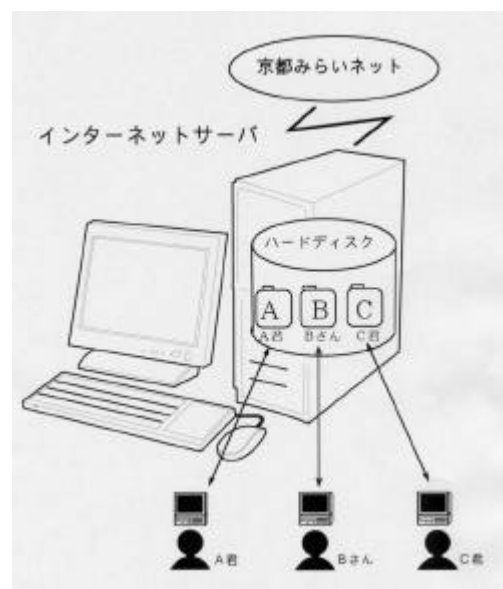


図3-5

ルを使って、お互いの学校の代表生徒同士が事前の打ち合わせを行います。更に学習の成果発表の場となるTV会議の進行についてより細かな点の打ち合わせなど、共同学習の成果を高めるために電子メールによる連絡を頻繁に行っています。

三つめは、海外の学校との電子メールによる交流で、イギリスの中学生との間で国際理解教育を主な目的として取り組んでいる例です。

なお、中学校においては、メールアカウントの活用に際して、教師が情報モラル等について十分に指導し、生徒が情報社会に参画する態度を育成するという観点にも力を入れていることがうかがえました。

ウ 盲・聾・養護学校における活用例

児童生徒が自分で活用できる代表的なコミュニケーションの道具として電子メールを利用している例が多くありました。その具体的な例は、次のとおりです。

- ・ 小学校時代の同級生が進学した地元中学校との交流
- ・ 養護学校間の生徒同士や入院中の同級生との交流
- ・ 入寮したり入院して学んでいる児童生徒と家族や友達との連絡

(2) 成果と今後の展望

電子メールの教育利用に関して、個人情報保護やエチケットなどの情報モラルを切り離して考えることはできません。そのため児童生徒の電子メールの利用に際しては、まず情報モラルについて徹底した指導が必要となります。しかし、多くの学校ではそれを考慮しても児童生徒のコミュニケーション能力の育成や自己表現力の育成等に教育効果があり、今後も電子メールの活用を積極的に行いたいと考えていることが分かりました。

今後は、技術の発展により安心して電子メールの教育利用ができる環境が整うものと思われます。